

保育理念		安全・安心な保育環境のもと「たくましく生きる力・学びに向かう力」を育む	
保育方針		「子どもの主体性が育つ保育」	
保育目標		『安全・安心』『健康な心と体』『豊かな感性』『のびのびと自己を表現する』『伝え合う』『ともに育ち合う』	
重点目標		共主体を意識した環境づくり・保育者の関わり～子どもも保育者も楽しめる保育を目指して～	
項目	重点項目	達成目標・具体的施策 (・昨年度の年度末評価・課題を踏まえて5月に記入。 ・保護者や職員にとるアンケートな内容などの数値を入れる。)	年度末評価 (・数値だけでなく、子どもの姿の変化なども含めて語り合う。 ・結果だけではなく、今後への課題も含めて記入する。)
学びの場である保育の充実	「愛情」を基盤とした自己肯定感の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの姿を職員間で語り合う時間を月に2回以上設け、子ども理解を深める。 ・クラス会議を週1回行えるように職員間で連携し、多角的に子どもの姿を見たり知ったりする。クラス間での話し合った内容を職員会議や幼児・乳児会議の中で伝え合うことで一人一人に応じた関わりや配慮を職員が共有するように努め、愛情豊かに丁寧なかかわりを心掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・週1回以上語りあう日を設け、子どもの姿や個々を大切にしている。今後も愛情豊かに一人一人と向き合った丁寧なかかわりを続けていきたい。
	資質・能力を育む保育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・会議とは別に、乳児語り・幼児語りの機会を週1回は持つ。他のクラスや乳児と幼児の交流の場ともなるよう、クラスや乳児・幼児の枠にとらわれず誰でも参加できるようにする。 ・その中で写真や動画を使いながら丁寧に読み取り、そこで読み取ったことを環境の再構築や子どもとの関わりに活かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児会議で話し合った内容は資料を用いながら全体で共有するようにした。様々な職員が話し合いに参加したり、違うクラスに入り合う人事交流の機会を持ったりするなど、さらなる多角的視点で子どもを読み取って環境に活かしていきたい。
	ちがいを認め合える仲間づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の乳児の『みつめようデイ・ウィーク』や週一回の幼児の『こどもだより』で、一人ひとりの育ちや興味、関心が違うことやそのことを保育者が認めていることを保護者へ積極的に発信していく。 ・週一回の乳児語り・幼児語りで子どもの姿を伝え合い、新しい気付きを保育者間で共有し今後の保育に繋げていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児は『みつめようデイ・ウィーク』、幼児は保育参観の時に動画を活用し、一人ひとりの興味関心を大切にしているということを保護者にわかりやすく伝えた。 ・保育や行事についての話し合いの割合が多くなり、子どもの姿についての語り合いが少なくなってしまった。少しの時間でも有効にして積み重ねていくということ大切にしたい。
	健やかな体の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・食べる事や旬の食材に興味や関心を持てるよう栽培活動をしたり給食のメニューにどのような食材が使われているかなどを伝えたりする。また、月1回程度ライブキッチンを行えるように調理師と連携を図る。 ・健康や生活習慣の話を見守りと共に計画し、適宜行う。保護者にも園だよりや玄関掲示などで発信し啓発する。 ・子どもが主体的に身体を動かして遊んだり楽しさを味わったりできるように保育者が意図的に環境を整えたり計画を立てたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもや保護者に、活動しやすい服装を自分で考えて衣服の調節ができるように伝えたことで、健康に過ごす方法を意識して取り組もうとする姿が見られた。 ・保育者が子どもたちに今必要な遊びを捉え、“自然に触れる中で全身を使う動作(掘る・登る・運ぶ、押す・牽く等)を取り入れる”“穴や溝を一緒に作り、踏み心地の違いや感覚を感じることができるようにする”など、五感を通してのびのびと身体を使う環境を整えた。
資質向上 保育者の	職員研修・園内研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修の学びの報告では環境に関するだけでなく、どういった視点で子どもをみているかや関わり方についても意識しながら報告し、共有する。 ・週一回の乳幼児それぞれの語りの時間に保育や環境のことだけでなく、子どもとの関わりを振り返る時間を持つようにする。また、月一回 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権についての語り合いでは伝統行事(ひな祭り・節分)の時に担当が中心となり、由来や今大切にしたいことなどを深めることができた。四季の節句を大切な機会と捉え、職員がお互いの考えを認め合って共有してから取り組むようにしていきたい。

		<p>の職員会議では年4回の取り組み月以外でもできるだけ人権に関するテーマを決めて語り合ったり、チェックリストを活用したりしてこまめに自分自身を振り返る機会を持つ。</p>	
	チーム保育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児・幼児会議を月2回以上、にじいろ会議を2カ月に1回行う。会議には、担当以外の職員も参加し、多角的な視点で子どもの姿や環境構成について考えたり共有したりする。 ・チームとして職員間の関係性が深まるように、職員同士が互いについて知る場を年2回（4月、9月）設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児クラスは週3回、幼児クラスでは週1回会議を行い、職員間で語り合いを深めることができ、子どもの姿や環境の再構成につながった。 ・チームで連携していくための関係作りとして、チームビルディングワークを行う。保育者、用務・保健の職員も参加し、普段関わりの少ない職員と関わる貴重な時間となり良かった。回数やメンバー構成を変えてワークを続けていきたい。
開かれ信頼される園づくり	園情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> ・icucoを活用し、幼児は週1回こどもだよりで毎週の子どもの様子や、乳幼児共に1・2カ月に1回、個別に様子を伝える。 ・年4回、取り組みの様子を配信し、保護者の人権への興味・関心を高められるようにする。 ・ホームページを定期的に更新し、園での保育の様子を発信していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・icucoに限らず、写真を用いて遊びの様子を保育室に掲示し、保護者発信を行った。 ・HPの更新を進められるように、ICT担当と連携していく。 ・取り組みの内容を保護者により理解してもらえるように、配信方法や形式を工夫した。
	小学校との接続	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間づくり集会や幼保小接続に関する研修会に積極的に参加し、情報交換をする。 ・小学校へ保育園の遊びを知ってもらうために、園内研修の案内をする。 ・小学校への散歩や授業見学の機会を作り、就学への期待を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間づくり集会や架け橋期の研修などに参加することによって保育園以外の職員との交流や情報交換ができた。 ・小学校での『おもちゃランド』に参加したことをきっかけにお互いに行き来する交流につながった。保育園に来てもらうことができたのはよかった。来年度も引き続き交流の機会を持ち、保育園で大切にしていることを発信していきたい。
	地域交流 子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ・年1回のクラス懇談会、年2回の個人懇談の機会を持ち、園と家庭の様子を伝え合ったり、子育てに関する悩みに丁寧に伝えていく。又、懇談の時だけではなく、保護者が不安を抱えている時には迅速に対応し、保護者にとっても安心できる場となるよう努める。 ・月2回、保育園見学の日を設ける。その中で保育園に関するだけでなく育児に対する不安や疑問にも丁寧に伝えていく。また、園庭開放・室内開放の案内をし、保育園をより知ってもらえるよう努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年を通して保護者対応を丁寧なことを心掛けてきた。しかし、多様なニーズや各家庭の背景に応じたこまめな対応をするために、保護者への伝え方を工夫することが課題である。 ・園庭開放や室内開放の声掛けを続けたことにより、少しではあるが利用者が増えた。
	備考	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練年間計画表を作成し、毎月1回以上、避難訓練を実施する。 ・災害発生時の待機中に必要となる備品や備蓄品を用意し、年1回点検している。 ・毎月1回保育所、こども園、児童発達支援センターの担当者が集まり、リスク担当者会を開催し、各園のリスク事案について共有し再発防止に努めている。 ・リスク担当者会で検討し、作成した各種マニュアルを全園（保育所、こども園、児童発達支援センター）で共通理解し、安全・安心な園生活を送れるよう職員一同努めている。 	

<p>次年度に向けた重点的な改善点 今後取り組むべき重点的な課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児・幼児それぞれの会議は継続して行ってきたが、担当以外の職員を交えてとなると難しかった。検討していきたい。 ・後半になると行事についての話し合いが多くなり、子どもの姿の語り合いの機会があまり持てなかった。年度のはじめにしっかりと計画を立て、年間を通じて語り合いの機会が確保できるように努め、資質能力を育む保育やちがいを認め合える仲間づくりへと繋げていきたい。
--	--

◎達成 ○おおむね達成 △不十分